

【資料紹介】青木文庫蔵戯単目録

中塚 亮

名古屋大学附属図書館青木文庫には中国文学者青木正児が収集した「戯単」29枚を、台紙に貼り一冊に綴じた『戯單』が収められている¹。その内訳は、青木が文部省の在外研究員として中国に滞在した時期に当たる大正14年(1925年)4月12日から翌年6月7日までのもの28枚、及び韓世昌の1928年の京都市岡崎公会堂公演分1枚となっている。

「戯単」とは芝居のパンフレットであり、ときには宣伝用のチラシでもある。辻聴花は戯単について「各劇場では、毎日番附を印刷したものを、演劇中に、場内にて、一銭づゝに賣る。これを戯單兒、或は戯單子といふ。……演劇の終幕に近くと、其の晩のか、翌日の番附を……印刷したのを観客に配布することもある」と説明している²。

これらの資料は、当時の芝居の上演状況を知る上で貴重な資料であると同時に、青木の関心のありかや研究材料をさぐる大きなたすけとなりうる³。すでにこのうち崑劇伝習所のもの7枚(18-24)については赤松の研究が存在しているが⁴、全体についてはこれまで紹介されてこなかった。本稿では以上29枚の戯単を図版を添えて紹介するとともに、簡単な解説を付して利用の便となるようつとめる。なお、演目は《》で示し、役者については右→左、上→下、の順で示す。

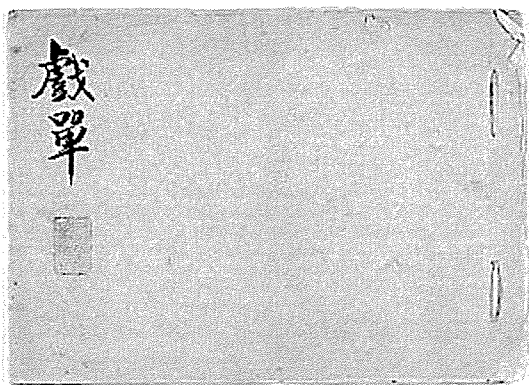
¹ 現物および複製が青木文庫に収められているほか、マイクロフィルムが中央図書館に収められている

² 辻聴花『支那芝居(上・下)』大空社、2000(支那風物研究会、1923-1924、の複製)、pp.135-136(下巻)

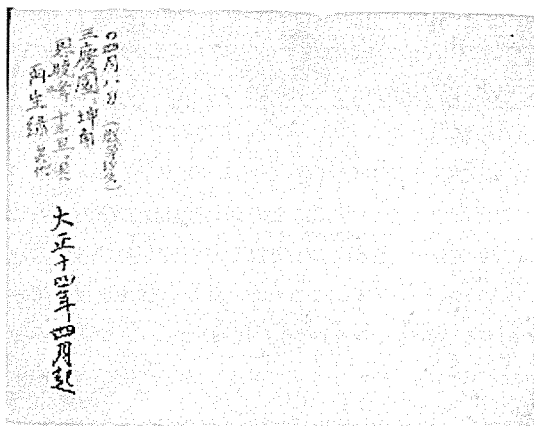
³ ただし、青木が在外研究に見た芝居は本『戯單』に戯単が収められたものだけではないと考えられる。例えば青木は北京の慶樂園・三慶園(未詳、三慶園のあやまりか)・広和楼の名を挙げて「是等の劇場は余も嘗て之を目撃して略ぼ記憶に存す」と記しているが、これら三劇場の戯単はいずれも収録されていない。(ただし、三慶園での観劇については00bに記述が見える。なお、青木が北京を訪れたのはこの大正14~15年の在外研究の際のみである)(青木正児「支那近世戯曲史」『青木正児全集』3、春秋社、1972、p.461)

⁴ 赤松紀彦「七枚の戯単」『吉田富夫先生退休記念中國學論集』汲古書院、2008

00a : 表紙



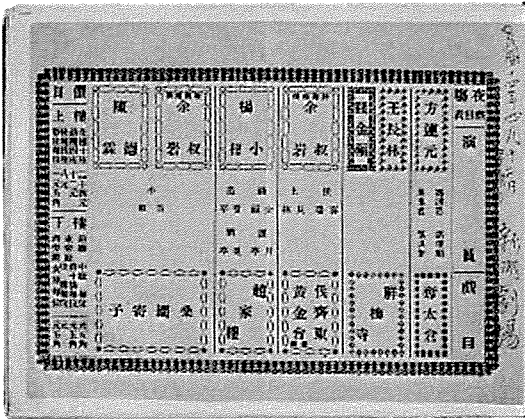
00b : 表紙裏



「大正十四年(論者注: 民国十四年、1925年)四月起」「四月八日(戯單紛失) 三慶園 坤角 恩曉峰 十三旦ヲ見ル《再生縁》其他」とある。三慶園は北京・大柵欄内中間路南にあった劇場で、解放前に営業停止し、解放後は倉庫になったという⁵。

⁵ 韩朴主編『首都图书馆藏旧京戏报』1,2 学苑出版社,2004,p.4 なお、本論文では北京の劇場情報を確認するに当たっては、韩書のほか、李畅『清代以来的北京剧场』北京燕山出版社,1998、王瑞年編著『京城琐谈第一辑 街巷 戏园』北京图书馆出版社,1998、侯希三『北京老戏园子』中国城市出版社,1999、中国戏曲志编辑委员会、《中国戏曲志·北京卷》编辑委员会共編『中国戏曲志·北京卷』(下)中国 ISBN 中心,1999(以下、『北京卷』と表記)を利用した。複数の資料に記述がある場合には、より詳細なものを挙げる。また、記述が相互に矛盾する場合にはそれぞれ指摘する。

01：民国十四年四月十二日(星期日)、夜場、新明劇場



新明劇場(新明大戲院)は前門外西珠市口香廠路中段路北にあった劇場。跡地は現在、香廠路小学校になっている⁶。

《奪太倉》方連元、馮連恩、羅連雲、諸連順、甄洪奎

《祥梅寺》王長林、錢金福

《伐齊東》《黃金台一盤關》余叔岩、侯喜瑞、王長林

《趙家樓》楊小樓、錢金福、范宝亭、遲月亭、劉硯亭

《桑園寄子》余叔岩、陳德麟、小客串⁷

価格/上樓/花樓十座：24元、前廂四座：12元、後廂四座：8元、散座每位：1元5角

下樓/前庁・中庁每位：1元5角、東旁庁・前十排每位：1元5角、東旁庁・後排每位：1元、西旁庁女座每位：1元5角

「包廂(廂)」はボックス席で、辻聰花が青木の質間に答えているところでは、「現在樓上には包廂と散座と有り、左右兩樓及び正樓の前列に包廂を置き、其の他を散座とす」⁸。また、「花樓」は樓上の前五六列の座席を指す⁹。

02：陽曆五月十六号(星期六)、十七号(星期日)、夜戲、開明戲院

開明戲院は珠市口大街路南にあった劇場で、現在は珠市口電影院になっている¹⁰。

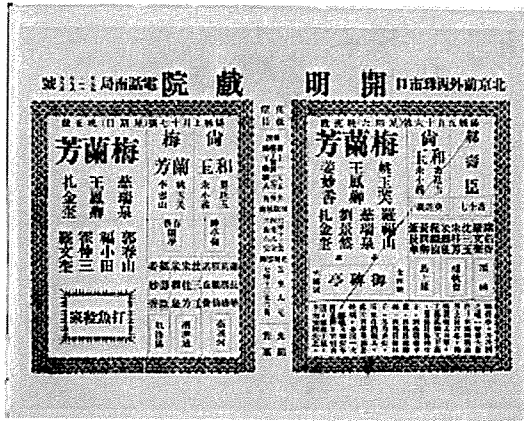
⁶ 韓前掲書,p.240、李前掲書,1998,pp.166-167、王前掲書,p.129、侯前掲書,pp.178-180、『北京卷』,p.903
 なお、建てられた年については王は1914年とし、韓・李・侯は1919年とし、『北京卷』は清末民初とする。
 また焼亡した年については『北京卷』は1925年とし、韓・李・王・侯は1928年とそれぞれする。

⁷ 「客串」指非京剧界的人员参加京剧演出」前掲『日京老戏单』,2004,p.101

⁸ 青木前掲『支那近世戯曲史』,pp.463-464

⁹ 姿前掲書,p.99

¹⁰ 韓前掲書,p.139、王前掲書,p.128、李前掲書,pp.162,169-171、『北京卷』(下),p.893
 なお、開業年について王は「建于1912年」とし、李は「于1922年9月正式開幕」とし、『北京卷』は「中华民国十年(論者注：1921年)兴建,当年九月十七日启用」とし、韓は「中华民国十年九月十七日正式開幕」とする。



五月十六日

《審李七》郝寿臣 《英雄義》尚
 和王、婁廷玉、朱小義 《頂磚》
 諸茹香、羅文奎 《蟠桃会》沈三
 玉、朱桂芳、朱湘泉 《馬上緣》
 程繼仙、黃潤卿、蕭長華
 全本《御碑亭》梅蘭芳、姚玉芙、
 王鳳卿、姜妙香、羅福山、慈瑞泉、
 劉景然、扎金奎

五月十七日

《神亭嶺》尚和王、婁廷玉、朱小

義 《春香閣学》梅蘭芳、姚玉芙、李寿山 《秦淮河》蕭長華、黃潤卿、程繼仙、諸茹香
 《泗州城》沈三玉、朱桂芳、朱湘泉 《取洛陽》郝寿臣、姜妙香

《打魚殺家》梅蘭芳、慈瑞泉、王鳳卿、扎金奎、郭春山、福小田、霍仲三、羅文奎

価格/楼上：1元5角、楼下前排：1元2角、楼下後排：8角、頭級包廂・六座：12元、頭級
 包廂・四座：8元、頭級包廂・三座：6元、正面包廂・五座：9元、正面包廂・七座：12元6
 角

なお、5月16日のプログラムには朱で斜線が引かれているので、青木は見えていないものと
 思われる。また、同日の欄外解説中に「御碑亭乃我國之唯一警世大劇 在日本頗得輿論界之好
 評也」とあるが、《御碑亭》は1919年、1924年の梅蘭芳来日公演で演じられたほか¹¹、1924
 年来日公演時にはレコードにも収録・販売されている¹²。梅蘭芳自身も1919年の公演を回想
 して、「那一次我所演得剧目除了新編的《天女散花》之外，最受欢迎得，同时也是演出次数最
 多得，要算是《御碑亭》」と語っている¹³。

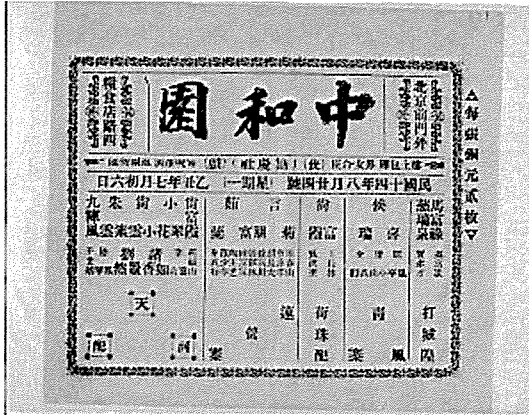
本公演について青木は「崑曲劇と韓世昌」中で「彼(論者注：韓世昌)を見る二箇月前に、
 同じ開明戲院で梅蘭芳の「春香閣学」を見」たと記し、その感想を述べている¹⁴。なお、文中
 の韓世昌の公演については次の戲単03参照。

¹¹ 吉田登志子「梅蘭芳の一九一九年、二四年来日公演報告」『日本演劇学会紀要』24,1986

¹² ニッポンノホンシ印レコード「梅蘭芳吹込」広告『アサヒグラフ』3巻22号,1924.11.26 同広告によ
 ると、《御碑亭》は《紅線盗盒》と併せて一枚に吹き込まれている。このほかには『西施』『天女散花・廉錦
 楓』『貴妃醉酒』『六月雪』が発売された。

¹³ 梅兰芳「日本人民珍贵的艺术结晶歌舞伎」中国戏剧家协会编『梅兰芳文集』中国戏剧出版社,1962

¹⁴ 青木正児「崑曲劇と韓世昌」『青木正児全集』7,春秋社,1970



《打城隍》馬富祿、慈瑞泉、高富遠、賈多才

《青風寨》侯喜瑞、閻嵐亭、傅小山、(全武行)

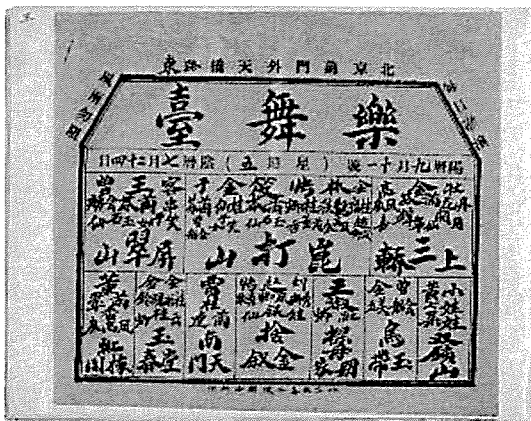
《荷珠記》尚富霞、王長林、甄洪奎

《連營寨》言菊朋、茹富蘭、張春山、曹連孝、胡長太、錢富川、張

彩林、韓富信、陶玉芝、范少亭、(全武行)

《天河配》尚富霞、小翠花、尚小雲、朱素雲、九陣風、紹福山、李壽山、諸如香、劉景然、陸鳳琴、王立卿

なお、本戲単の価格は銅元二枚。



樂舞台は天橋南大街路東にあった河北梆子を主に上演した劇場で、1912年に建てられたが1931年に焼亡した²⁰。跡地は現在自然博物館になっている²¹。

《上三轎》牡丹花、金蘭芬、高鳳奎、閔月仙、韓翠喜

《打崑山》金桂福、林艷秋、口桂

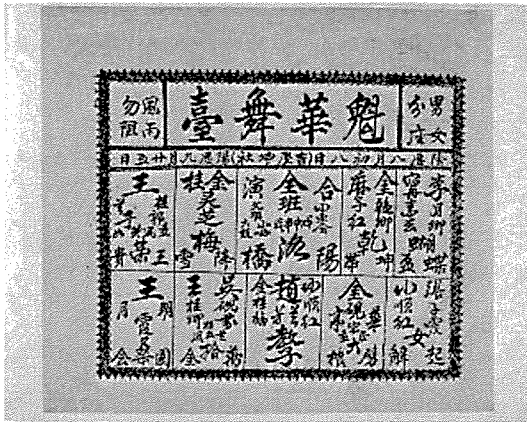
¹⁸ 『北京卷』(下)p.846

¹⁹ 李前掲書,p.109、金梅「中和戲院修復重張」『中国京劇』1999年01期、本戲単

²⁰ 『北京卷』(下),p.904

²¹ 韓前掲書,p.153

卿²、筱蘭芬、金娃仙、于蘭芬、趙鳳卿、高鳳奎、董蘭香、石玉仙、于笑如、曾会舫
 《翠屏山》客串、王蘭芬、曾会舫、于笑如、石玉仙
 《双鎮山》小娃娃、黄七朵 《烏玉帶》曾会舫、金美玉
 《探母回家》王淑紅、王淑卿 《捨金釵》劉秀卿、趙鳳卿、□秀芬、銀娃仙
 《南天門》賈桂蘭、賈桂連 《玉堂春》金桂福、金硯鈴、桂雲卿
 《紅梅閣》董蘭香、董翠香、高鳳桂



《榮三貴》王桂口、郭喜鳳、于笑如
 《女起解》張子霞、小順紅 《大劈棺》金硯華、金硯亭、宋正喜
 《教子》小順紅、趙蘭芳、金桂福 《拾萬金》吳硯芬、王桂卿、桂雲口、桂雲鳳
 《桑園會》王明霞、王月霞

07：己丑年八月十一日（礼拝一）、群益社、歌舞台

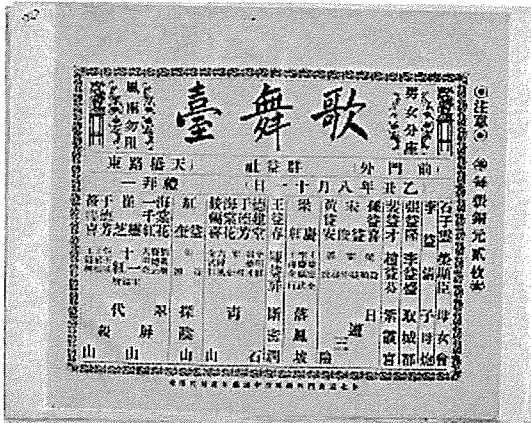
歌舞台は天橋路南側路東にあった劇場で、1910年に建てられた²⁴。群益社は梆子腔と京劇の両種をものした戯班。1919年からは科班も設立して少なからぬ人材を輩出した。その徒弟はみな名前のうちに「益」の字を含むが、本戯単でもその様子は確認できる。歌舞台を占拠して

06：陽曆九月二十五日、陰曆八月八日、吉慶坤社、魁華舞台
 魁華舞台は天橋路西にあった河北梆子を主に上演した劇場で、1913年に建てられた(現存しない)²³。吉慶坤社は戯班(未詳)。
 《蝴蝶盃》李月卿、寧素雲
 《乾坤帶》金口卿、麻子紅
 《洛陽橋》(全班合演)
 《梅降雪》金靈芝、桂靈芝

²² 判読できない字については□で表す(以下同)

²³ 李前掲書,p.184、『北京卷』(下),p.904 なお、李は「这都是由男性演员演出的剧场」とするが、本戯単によれば「吉慶坤社」が出演しているので、必ずしもそうではないと思われる。

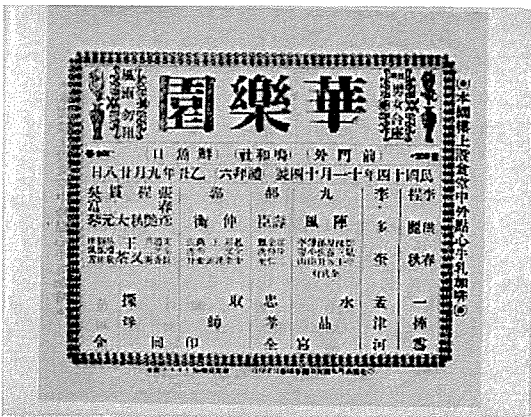
²⁴ 『北京卷』(下),pp.891-892



《青石山》徳建堂、于徳芳、海棠花、筱福喜、全明祥、谷徳才、霍明如、六陣風、(全武行)
 《探陰山》紅益奎、張益源
 《翠屏山》(代《殺山》)海棠花、一千紅、崔靈芝、于徳芳、筱福喜、劉義増、龐徳雲、天明亮、十一紅、張玉峯、王斌卿、王益興、宋益増
 なお、本戯単の価格は銅元二枚。

活動したが、1930年代に同舞台が焼亡すると解散した²⁵。

《母女会》石子雲、榮顯臣
 《子母炮》李益清
 《取城都》張益隆、李益盛、紫霞宮、裴益才、趙益芬
 《日遭喚》孫益喜、宋益俊、黃益安、梁益順、霍益伸、郭益成
 《落鳳坡》梁慶紅、王慶寿、李慶福、王海全、(全武行)
 《斷密澗》王益春、陳益祥



08：民国十四年十一月十四日(礼拝六)、己丑年九月二十八日、鳴和社、華樂園
 華樂園は前門外大柵欄南鮮魚口の劇場で、現在の華楽劇院。原名は天楽茶園で嘉慶年間に建てられた²⁶。鳴和社は京劇の戯班²⁷。
 《一捧雪》李洪春、程麗秋
 《孟津河》李多奎

²⁵ 韩前掲書,p.245、侯前掲書,p.186、『北京卷』(下),pp.820-821、892、朱栏「梨园, 现代文化的传统符号」『观察与思考』2006年9期 なお、群益社の設立年について侯および『北京卷』は1913年とし、朱は1918年とする。また、火災の年について侯は1931年とし、韓および『北京卷』は1935年とし、朱は1936年とする。

²⁶ 本戯単、韩前掲書,p.121

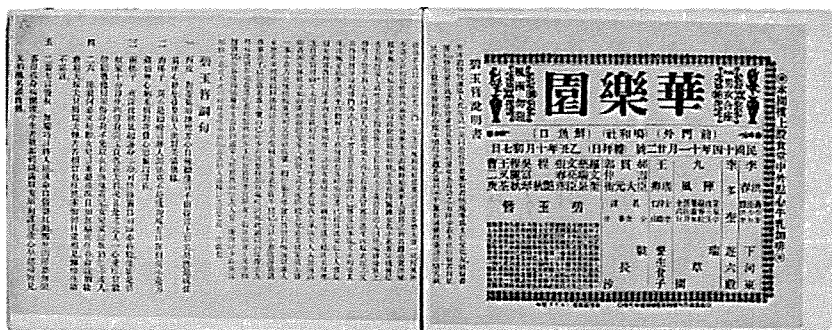
²⁷ 『北京卷』(下),p.846

《水晶宮》九陣風、閻嵐亭、沈三玉、周喜如、孫振升、傅小山、李壽山、(全武行)
 《忠孝全》郝壽臣、霍仲三、金仲仁、甄洪奎
 《取印》郭仲衡、扎金奎、羅文奎、王連浦、蔣少奎、張連升
 《探母回令》張春彥、程艷秋、貫大元、吳富琴、文亮臣、趙芝香、曹二庚、王又荃、慈瑞泉、
 劉鳳林、律佩芳



09：陰曆十月六日(礼拝五)²⁸⁾、協慶社(前出 04)、夜劇、三慶戲園(前出 00b)
 《魚腸劍》《刺王僚》李洪福、李長勝、慈瑞全、王連浦、閔喜林
 《丁甲山》侯喜瑞、方連元、諸連順、付小山、王玉吉、羅連雲、馮連恩、陶玉芝、范雲亭、朱玉康
 《荷珠配》尚富霞、王長林、甄洪奎、賈多才、張洪斌

《八大錘》茹富蘭、言菊朋、張連廷、蔣少奎、范雲亭、鮑順義、錢富川
 全本《風箏誤》尚小雲、郭春山、李壽山、朱素雲、諸如香、馬富祿、羅富山、扎金奎



10：民国十四年十一月二十二号(礼拝日)、己丑年十月七日、鳴和社(前出 08)、華樂園(前出 08)
 《下河東》李洪春、蔣少奎、陳少五、甄洪奎 《遊六殿》李多奎

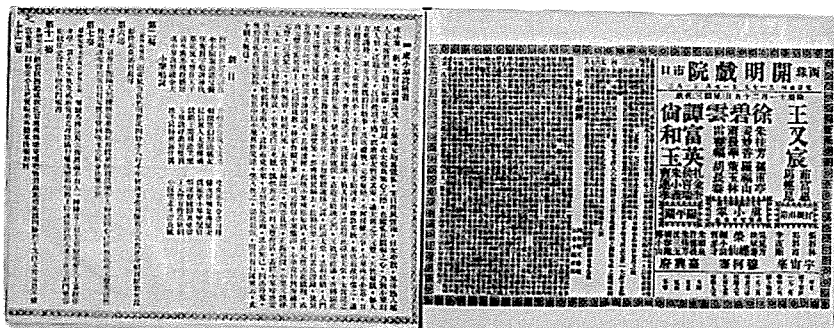
²⁸⁾ 陰曆十月六日は「礼拝五」(金曜日)ではなく「礼拝六」(土曜日)

《瑞草園》九陣風、閻嵐亭、沈三玉、陽春龍、周喜如、孫振升、(全武行)

《双生貴子》王瑤卿、金仲仁、李寿山

《戰長沙》郝寿臣、貫大元、郭仲衡、扎金奎、譚春仲

《碧玉簪》羅文奎、慈瑞泉、文亮臣、張春彥、程艷秋、吳富琴、程麗秋、王又荃、曹二庚
本戲單では別紙の《碧玉簪》の「説明書」が青木により切り貼りされている。



11：陽曆十一月二十五日(星期三)、夜戲、開明戲院(前出 02)

《打棍出箱》王又宸、茹富惠、馬連昆

《虞小翠》徐碧雲、朱桂芳、姜妙香、蕭長華、雷喜福、孫甫亭、羅福山、董玉林、胡長泰

《陽平関》譚富英、尚和玉、扎金奎、侯喜瑞、朱小義、曹連孝

《宇宙峯》張彩林、吳彩霞、李広順

《穆柯寨》吳昆芳、徐斌寿、榮蝶仙、福小田、賈多才

《嘉興府》宋湘泉、許德義、朱桂芳、沈三玉、楊春龍、傅小山

価格/楼下/前排：1元2角、後排：8角

樓上/散座：1元2角、頭級四座包廂：8元、正面五座包廂：9元

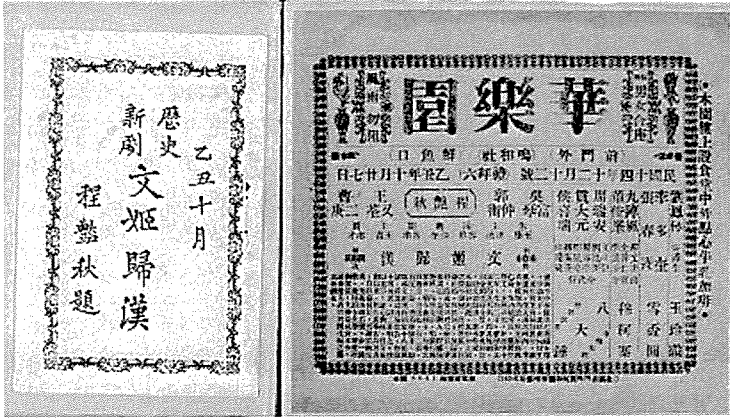
本戲單には『順天時報』より転載されたという江南小報による《虞小翠》の劇評が載っており、別紙で同じく《虞小翠》の説明書が附属している。

12：民国十四年十二月十二号(礼拜六)、己丑年十月二十七日、鳴和社(前出 08)、華楽園(前出 08)

《玉玲瓏》劉鳳林、張連生

《雪盃円》李多奎、張春彦

《穆柯寨》九陣風、董俊峯、羅文奎、金仲仁、李洪春、錢宝奎



《八大錘》周瑞安、貫大元、侯喜瑞、文克臣、劉鳳奎、周春亭、閻嵐亭、孫振升、慈瑞泉、(全武行) 《文姬歸漢》吳富琴、郭仲衡、程艷秋、王又荃、曹二庚、朱玉康、王連浦、陳客串、蔣少奎、閻客串、王玉吉、賈多才

《文姬歸漢》については「全本新排・初次開演」とあり解説が載っているほか、別紙で説明書も附属している。

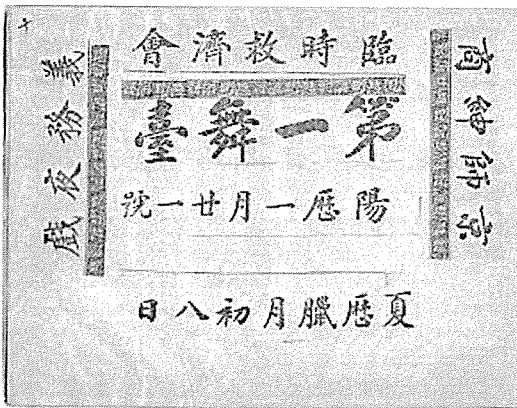


13：陽曆一月二日(星期六)、陰曆十一月十八日、臨時高窩頭會義務戲、夜戲、新明劇場(前出01)

- 《演火棍》方連元、馮惠恩、諸連順
- 《戰代州》尚和王、張得癸、朱小義、鮑順義
- 《探親家》王蕙芳、慈瑞全
- 《孝義節》龔雲甫、陳德霖
- 《花天錯》筱翠花、王又荃、陸鳳琴
- 《問樵鬧府》《打棍出箱》余叔岩、錢金富、王長林、裘桂仙

価格/花楼：24 元、包厢：8 元・12 元、散票 1 元 5 角、前排：1 元 5 角、後排：1 元(散票～後排の価格は、楼上・楼下とも同額)

「義務戯」とは慈善を目的とした公演で、「年末の同業救済とか貧民救済や黄河難民救済とかのために」行われ、義務とあるように原則としては無給で演じられる²⁹。中でも「窩窩頭会」とは貧しい末端の役者の救済を目的としたもので、一般には年末に行われる(そのため、後述の戯単 15 に見える「封箱戯」のことを「窩窩頭会」とも呼ぶ)³⁰。「窩窩頭」とはトウモロコシの粉などを水でのばし円錐状にして蒸した食べ物。



14：陽曆一月二十一号、夏曆臘月八日、京師紳商臨時救濟會義務戲、夜戲、第一舞台

第一舞台は前門外西柳樹井(現在の珠市口西大街)にあった劇場で、1914年に建てられたが、1937年に焼亡した³¹。

《賜福》孫小山

《演火棍》朱桂芳、沈三玉、周瑞祥、陳少五

《定軍山》譚富英、許德義、李洪春、張連升

《陽平關》尚和王、馬連良、郝壽臣、鮑順義、朱小義、甄洪奎 《罵曹》孟小冬

《打魚殺家》朱琴心、王又宸、傅小山、福小田《小放牛》荀慧生、王長林

《坐樓殺惜》高慶奎、于連泉、茹富惠、羅福山

《五龍祥》尚小雲、茹富蘭、慈瑞全、諸如香、譚春仲

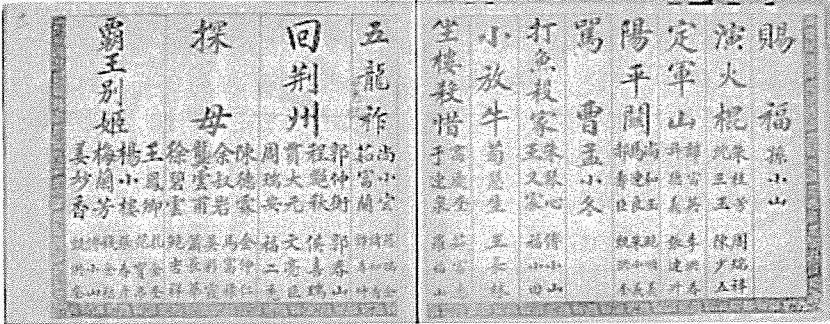
《回荊州》郭仲衡、程艷秋、貫大元、周瑞安、郭春山、侯喜瑞、文亮臣、富二禿

《探母》陳德霖、余叔岩、龔雲甫、徐碧雲、金仲仁、馬福祿、吳彩霞、蕭長華、鮑吉祥

²⁹ 濱一衛『支那芝居の話』弘文堂書房,1944,pp.254-255

³⁰ 王永运は1930年代の春節前後の芝居の上演状況について回想し述べた文章の中で「(12月末には)许多戏班开始上演“封箱戏”，用来救济本戏班生活贫困的基层演员，故而“封箱戏”也称“窝窝头戏”」と記している。(王永运『新春漫忆』『中国京剧』2006年02期)

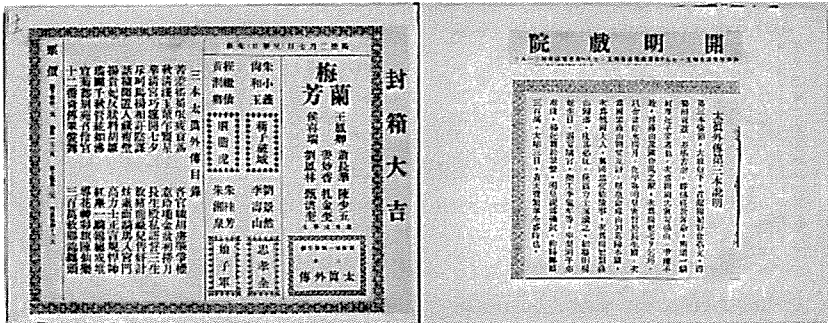
³¹ 韩前掲書,p.229



《霸王別姫》王鳳卿、楊小楼、梅蘭芳、姜妙香、扎金奎、范宝亭、張春彦、銭金福、傅小山、甄洪奎

本戯単は青木により切り貼りされている。

15：陽曆二月七日(星期日)、夜戯、開明戲院(前出 02)



《太真外伝・三本》梅蘭芳、王鳳卿、侯喜瑞、蕭長華、姜妙香、劉鳳林、陳少五、扎金奎、甄洪奎

《斬子破城》朱小義、尚和玉

《胭脂虎》程繼仙、黃潤卿

《忠孝全》劉景然、李壽山

《娘子軍》朱桂芳、朱湘泉

価格/楼下前排 2 元、楼下後排 1 元 2 角、楼上散座 2 元、四座包廂 12 元

《太真外伝》第三本については「新排第一歌舞佳劇」とあり、別紙で説明書も附属している。

なお、『梅蘭芳年譜』では 1925 年夏に《太真外伝》頭本を、秋に《太真外伝》第二本をそれぞれ新編上演し、翌 1926 年 12 月に第三、四本を上演したとするが、本戯単によれば第三本

の初演は2月以前となる³²。

「封箱大吉」とあるが、辻聰花によると「封箱」とはもともと「衣装箱や道具箱を封ずる」こと(衣装箱に赤紙に黒字で書いた「封箱大吉」を貼り付けて封印する³³)で、十二月下旬(24、5日前後)に神を祭りさまざまな儀式を行って休業に入ることをいい、その後は「大晦日まで、大抵十日か、一週間位は、各劇場共、全く休業し、元旦から一齊に開演する」という³⁴。

本戯単は青木により切り貼りされている。

16：陽曆三月六号(星期六)、夜戯、開明戲院(前出02)



《取城都》張春彦、王鳳卿、福小田
《遊園驚夢》梅蘭芳、曹二庚、姜妙香、姚玉芙、羅福山

《戰馬超》朱小義、尚和玉、張德發
《秦淮河》蕭長華、黃潤卿、程繼仙

《南陽関》李壽山、王少亭、律佩芳
《取金陵》朱桂芳、侯喜瑞、朱湘泉
《探陰山》時玉奎、王立卿
価格/楼下前排：1元2角、楼下後排：8角、楼上散座：1元2角、四

座包廂：8元、二級五座包廂：9元

「附告一：每逢星期三、四 小翠花、言菊朋、孫毓堃、王幼卿 准演夜戯」

「附告二：每逢星期六、日 梅蘭芳、王鳳卿、尚和玉 准演夜戯」

17：民国十五年(論者注：1926年)三月十二号(礼拜五)、丙寅年正月二十八日、鳴和社(前出08)、白天、華樂園(前出08)

《別皇宮》程麗秋、文亮臣

《哭靈托兆》李多奎、羅文奎

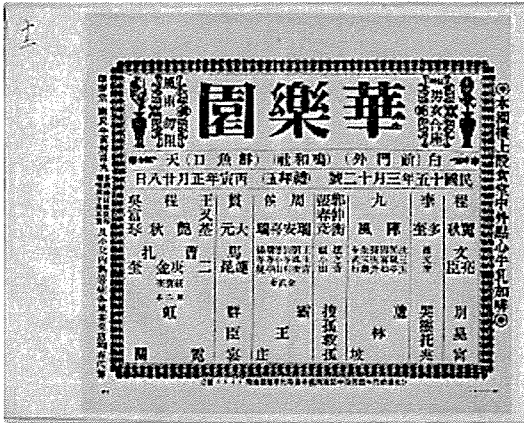
《蘆林坡》九陣風、沈三玉、閻嵐亭、周喜如、孫振升、朱玉康、(全武行)

《搜孤救孤》郭仲衡、張春彦、趙芝香、福小田

³² 王長發・劉華『梅蘭芳年譜』河海大學出版社,1994,pp.101-102

³³ 演前掲書,pp.253-254

³⁴ 辻前掲書(下),pp.135-136



《霸王庄》周瑞安、侯喜瑞、王玉吉、劉鳳奎、劉春利、傅小山、周春亭、楊春龍、(全武行)

《群臣宴》貫大元、馬連昆

《虹霓閣・頭二本》王又荃、程艷秋、吳富琴、曹二庚、扎金奎、錢宝奎

左側に「德壽堂 康氏牛黄解毒丸」の広告。德寿堂は1920年に開業した薬舗で、「康氏牛黄解毒丸」は同店の先祖伝来の薬品であり

1930年代に名声を博した。劇場にも多く広告を出していたようで、宋汉晓、赵惠洁は同店の当時の宣伝の様子について次のように描写している³⁵。

上世纪30年代享誉京城并远销东南亚的康氏牛黄解毒丸，就是以创始者姓氏定名的德寿堂祖传名药。据德寿堂的老药工介绍说，在当时的报纸上、电台广播中，各大戏园的舞台后幕上，有轨电车上，都可以看到或听到“德寿堂康氏牛黄解毒丸”的广告语。侯宝林老先生在自传里说：“我们那时唱戏，除了给烟卷公司做义务广告，还给德寿堂药铺的牛黄清心丸做义务广告。因为唱戏的上场门、下场门得用台幛，德寿堂就送给你台幛，上面印好了‘康氏牛黄清心丸’字样。这样，很多场子就替他做了义务广告。在天桥演出的很多场子都用印有‘康氏牛黄清心丸’字样的台幛。”可见，德寿堂当时在百姓中的影响颇大。

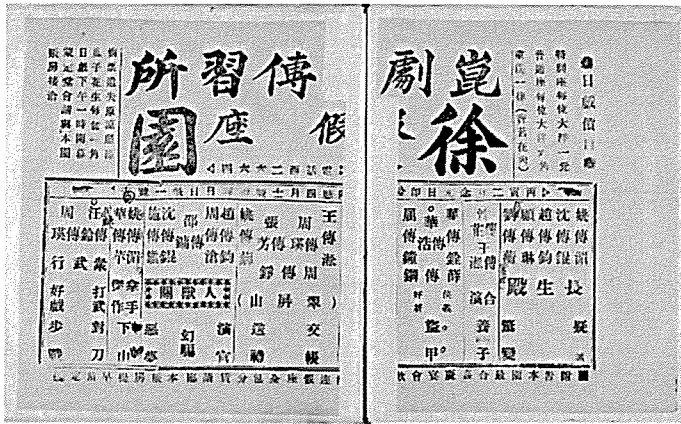
華楽園の戲単は前年の11月14、22日のもの(戲単08、10)もあるが、これには広告がついていない。なお、『首都图书馆藏旧京戏报』を見ると、華楽園の1931-34年の戲単と、広和楼の1933-34の戲単に同様に德寿堂「康氏牛黄解毒丸」の広告が確認できる³⁶。

18：陽曆四月十一号(礼拜日)、丙寅二月二十九日、崑劇伝習所、日戲、徐園(「假座」)³⁷

³⁵ 宋汉晓、赵惠洁「德达天下 同臻寿域—北京德寿堂药店焕发新机」『中国医药指南』2006年01期

³⁶ 韩前掲書

³⁷ 崑劇伝習所の戲単については冒頭に述べたように赤松紀彦氏がすでに紹介しているので詳しくはそちらを参照されたい。同論文でも演目名・役者名は紹介されており重複するが、崑曲伝習所の戲単についても以下に紹介しておく。



徐園は上海の営業制庭園。光緒年間に建てられた徐凌雲の私邸であったが、のち公開された。庭園内の青蓮居という飲食施設で芝居も上演された³⁸。崑劇伝習所は1921年に設立された崑劇役者養成

所・劇団。1927年に「新樂府」に改組される。崑劇伝習所出身者はみな名前のうちに「伝」の字を含み、また玉偏なら小生、草冠なら旦、金偏なら浄・老生・外・副末、三水なら副・丑というように最後の一文字の部首で役柄をあらわすが、その様子は本戲単などからも確認できる³⁹。

《疑讖》《驚變》(《長生殿》)姚伝涓、沈伝銀、趙伝鈞、顧伝琳、劉伝蘅

《養子》沈伝芷、王伝松 《盜甲》華伝銓、華伝浩、屈伝鐘、薛伝鋼

《交帳》《送禮》(《翠屏山》)王伝松、周伝瑛、張伝芳、姚伝蕪、周伝錚

《演官》《女瑪蘭》《惡夢》(《人獸関》)趙伝鈞、周伝滄、邵伝鏞、沈伝銀、施伝鎮

《下山》姚伝涓、華伝萃 《对刀》《步戰》王伝鈞、周伝瑛、(衆武行)

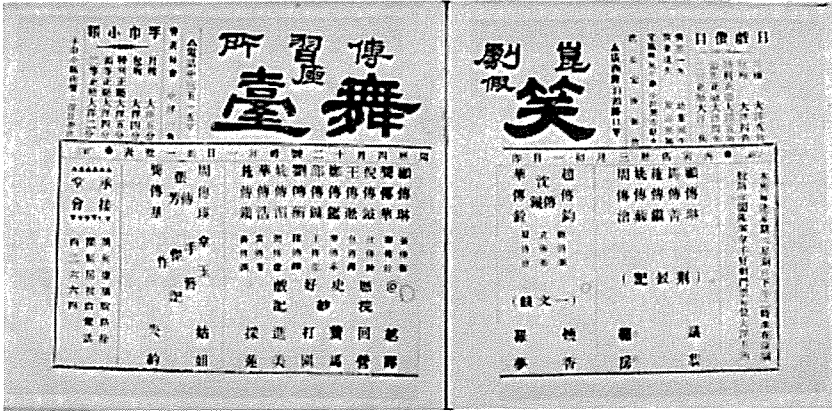
価格/特別座：大洋1元、普通座：大洋6角(「童僕一律」)(「香茗在內」⁴⁰) *瓜子花生：1角(每盆)

「蒙定堂會請與本園賬房接洽」とあることから、崑劇伝習所は堂会にも出向っていたことが知られる。また、次の笑舞台の戲単にも「承接堂會 請與康綏綽名徐園賬房接洽」とあるので、徐園をベースに活動していた様が見える。なお、「蒙定……」の文は他の徐園のもの(20-24)にも共通する。

³⁸ 三須祐介「海派園林から屋頂花園へ—上海遊樂場史の一断面—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要、第3分冊、日本文学演劇美術史日本語日本文化』44,1998

³⁹ 苏州市文化局、苏州戏曲志編輯委员会編『苏州戏曲志』古吴軒出版社,1998,pp.277-279

⁴⁰ 「香茗」とは茶のこと



19：陽曆四月十二号(礼拝一)、丙寅旧曆三月一日、崑劇伝習所、日戯、笑舞台(「假座」)
 笑舞台は上海広西路(現在の広西南路)71号にあった劇場で、小舞台、新楽府ともいう。1915
 年に開業し、1928年に閉じた⁴¹。

《議親》《繡房》(《荆釵記》)顧伝琳、馬伝菁、施伝鎮、姚伝蕙、周伝滄
 《燒香》《羅夢》(《一文銭》)趙伝鈞、沈伝銀、華伝銓、顧伝瀾、袁伝蕃、周伝滄
 《越寿》《回堂》《養馬》《打團》《進美》《採蓮》(《浣紗記》)顧伝琳、龔伝華、倪伝鉞、王伝
 淞、鄭伝鑑、邵伝籟、劉伝蘅、姚伝涓、華伝浩、施伝鎮、張伝蓉、華伝銓、汪伝鈞、包伝鐸、
 華伝萃、王伝菓、屈伝鐘、周伝滄、袁伝蕃、薛伝鋼
 《姑姐》《失約》(《玉簪記》)周伝瑛、張伝芳、龔伝華

価格/月楼：大洋5角、包厢：大洋4角、特別正厅：大洋5角、頭等正厅：大洋4角、二等正
 厅：大洋2角、「僕票一角 幼童減半」)

香茗：1角(每壺)

手巾小賬/月楼：大洋5分、包厢大洋：4分、特別正厅：大洋5分、頭等正厅：大洋4分、二
 等正厅：大洋2分(「手巾小賬由櫃上接目帶收」)

「本所每逢星期六星期日下午二時准在康翻路徐園開演拿手好戲 門票每位大洋五角」とあ
 ることから、崑劇伝習所は毎週土日に徐園で公演を行っていたと知れる⁴²。ただ、ここではチ
 ケットは一人5角とあるが、前出の戲単18では特別座で1元、普通座で6角とあり異なっ
 ている。あるいはお茶代が1角含まれているか。

⁴¹ 上海通志编纂委员会編『上海通志』8,上海人民出版社・上海社会科学院出版社,2005,p.5481
⁴² なお、このことは徐園での公演が土日だけであったことを意味しない。戲単21-24参照。



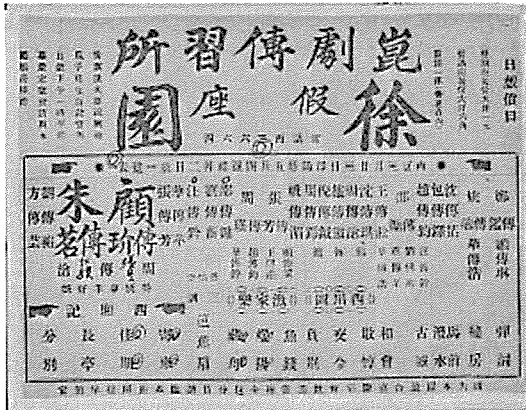
《養子》《送子》《出獵》《回獵》(《白兔記》) 王伝葉、沈伝芷、施伝鎮、周伝瑛、沈伝銀、周伝滄、王伝淞、顧伝瀾《拔眉》《探監》(《鸞釵記》) 邵伝鏞、姚伝蕪、王伝葉、馬伝菁、周伝滄

《学堂》《遊園》《堆花》《驚夢》(《牡丹亭》) 王伝淞、張伝芳、顧伝玠、朱伝茗、鄭伝鑑、馬伝菁、周伝瑛、華伝萃

仙格/特別座：大洋 1 元、普通座：

大洋 6 角(「童僕一律」)(「香茗在內」) *瓜子花生：1 角(每盆)

「附告 本所自顧傳玠因病請假以來，迭承來函詢問，因輟演在即時煩顧傳玠力疾登台連演三日以副雅意」とあるが、ここでいう「病」とは、顧伝玠がこの年三月に徐園で《鉄冠図》を演じて退場する際に吐血してひどくわずらったことを指すと思われる⁴⁶。



22：陽曆五月四号(礼拜二)、丙寅三月二十三日、崑劇伝習所、日戯、徐園(「假座」)(前出 18)

《弾詞》鄭伝鑑、顧伝琳
《繡房》姚伝蕪、華伝浩
《馬前潑水》沈伝芷、包伝鐸
《古城相会》趙伝鈞、邵伝鏞、王伝淞、汪伝鈴、劉伝衛、華伝萃、華伝浩
《敗悼》《交令》《負荊》(《西川図》) 沈伝琪、周伝滄、施伝鎮、倪伝鉞、

周伝錚、鄭伝鑑

《魚錢》《端陽》《藏舟》(《漁家樂》) 姚伝涓、張伝芳、周伝瑛、邵伝鏞、顧伝瀾、王伝淞、趙伝鈞、華伝銓 《孫悟空三調芭蕉扇》 劉伝衛、汪伝鈴

⁴⁶ 周泰『蘇州崑曲』國家出版社, 2002, p. 304

《寄柬》《佳期》《長亭》《分別》(《西廂記》)華佺華、張佺芳、顧佺玠、朱佺茗、劉佺蘅、方佺芸、周佺滄

價格/特別座：大洋 1 元、普通座：大洋 6 角(「童僕一律」)(「香茗在內」) *瓜子花生：1 角(每盆)

23：陽曆五月五号(禮拜三)、丙寅三月二十四日、崑劇傳習所、日戲、徐園(「假座」)(前出 18)

《北錢》《胖姑》(《慈悲願》)方佺芸、邵佺鏞、袁佺蕃、包佺鐸、華佺浩、馬佺菁、趙佺鈞、沈佺琪、顧佺闌

《前親》《後親》(《風箏誤》)王佺淞、姚佺澗、沈佺芷、顧佺琳、馬佺菁、華佺萃、周佺滄、王佺蕖、華佺銓

《說窮》《羊肚》(《金鎖記》)顧佺瀾、華佺浩、馬佺菁、姚佺蕓

《茶敘》《問病》(《玉簪記》)周佺

滄、張佺芳、周佺瑛、龔佺華、薛佺鋼、華佺萃

《哭監》《寫狀》《三拉》《團圓》(《販馬記》)王佺淞、倪佺鉞、顧佺玠、朱佺茗、周佺瑛、周佺滄、華佺浩、華佺萃、施佺鎮、王佺渠、趙佺鈞、汪佺鈐、姚佺澗

價格/特別座：大洋 1 元、普通座：大洋 6 角(「童僕一律」)(「香茗在內」) *瓜子花生：1 角(每盆)

24：陽曆五月六号(禮拜四)、丙寅三月二十五日、崑劇傳習所、日戲、徐園(「假座」)(前出 18)

《折柳》《陽關》(《紫玉釵》)顧佺琳、華佺萃、姚佺蕓、邵佺鏞、周佺滄、鄭佺鑑、包佺鐸

《辭閣》《吃茶》《夏馱》《寫本》《斬楊》(《鳴鳳記》)馬佺菁、趙佺鈞、倪佺鉞、施佺鎮、沈佺

銀、沈伝芷、鄭伝鑑、王伝松、沈伝琪、王伝蕓、顧伝瀾、包伝鐸、華伝銓、顧伝琳、薛伝綱、周伝滄

《三擋》汪伝鈞、趙伝鈞、華伝浩、顧伝瀾

《陔輶》《入院》(《繡繡記》)周伝瑛、張伝芳、華伝萃、周伝錚、馬伝菁、姚伝湄

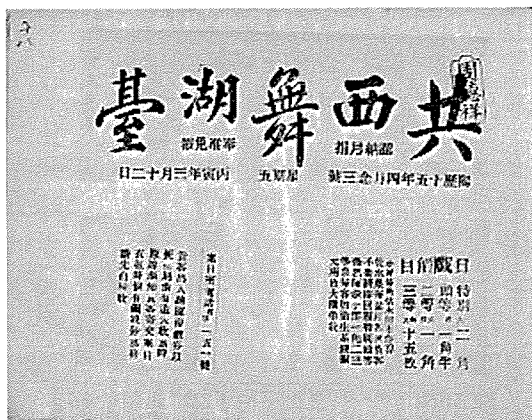
《梳粧》《跪池》(《獅吼記》)倪伝鉞、顧伝玠、朱伝茗、王伝淞

価格特別座：大洋1元、普通座：大洋6角(「童僕一律」)(「香茗在內」) *瓜子花生：1角(每盆)

青木は崑劇伝習所について、「江南に遊ぶに及び、上海に滞在すること前後兩次、暇有るごとに輒ち徐園に至り、蘇州崑劇傳習所の僮伶が演ずる所の崑曲を聴きて聊か生平の渴を醫するを得たり」と述べているが、本『戲單』中、崑劇伝習所の戲單が最多の7枚を数えるところからも青木が好んで観劇に通った様子がうかがえる⁴⁷。

なお、崑劇伝習所の戲單が本日公演分を以て最後となっているのは、この日が上海公演の樂日だったためである。『申報』の記事によれば崑劇伝習所は翌旧曆3月26日に上海を離れている⁴⁸。

25：陽曆十五年四月二十三号(星期五)、丙寅年三月十二日)、日戲、西湖共舞台



西湖共舞台は杭州の延齡路(現在の延安路)にあった劇場で、原名を歌舞台、鳳舞台という。1914年以前に建てられ、京劇を主に上演して、日中戦争以前の杭州では最大の劇場であったが、戦時中に戦火により焼亡した⁴⁹。

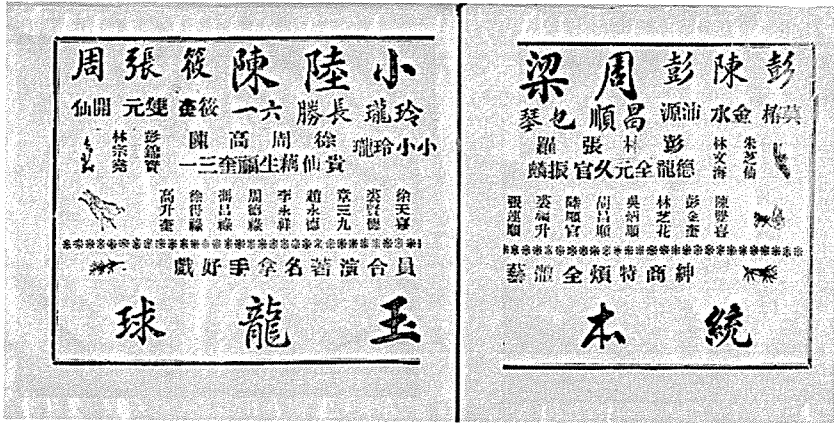
統本《玉龍球》彭莫椿、陳金水、彭沛源、周昌順、梁乜琴、小玲瓏、陸長勝、陳六一、筱筱奎、張双元、周開仙、朱芝仙、林文

海、彭德龍、林全元、張久官、羅振麟、小小玲瓏、徐貴仙、周藕生、高福奎、陳三一、彭錦宝、林宗堯、陳双喜、彭金奎、林芝花、吳炳順、胡昌順、陸順官、裘福升、張連順、徐天喜、裘賢德、章三九、趙永德、李永祥、周德祿、馮昌祿、徐得祿、高升奎

⁴⁷ 青木前掲「支那近世戲曲史」,p.4

⁴⁸ 『申報』民国15年5月5日、『申報(影印本)』223,上海書店,p.116

⁴⁹ 应志良、赵小珍、应丹『西湖戏曲』杭州出版社,2006,pp.125-126



価格/特別：大洋2角、頭等：大洋1角半、二等：大洋1角、三等：銅元15枚
 乾水菓：洋4角(每盆)

香茗(特別・頭等客)：小洋1角(每壺)、衛生茶(二・三等客)：銅元2枚(每客)⁵⁰

なお、青木は1922年の江南旅行の際にまだ鳳舞台と称していた西湖共舞台を訪れたことがあり、その様子を『江南春』中に描写している⁵¹。

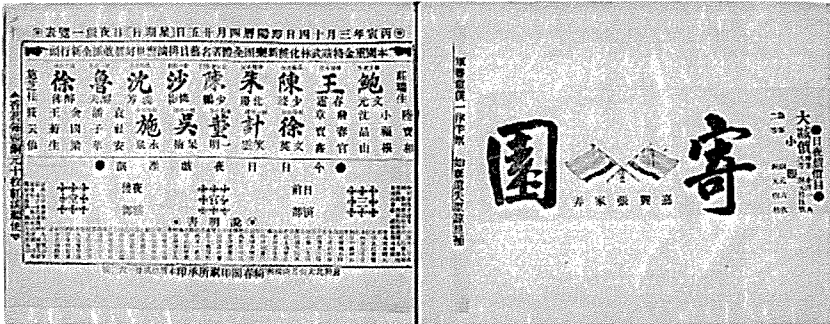
瓦舎の追憶は私を目前の拘欄へと誘つて行く。鳳舞臺と云ふのである。湖畔唯一の劇場で有るらしい。……場内は幾つかの部分に分れてゐる。先づ第一に這入つて見た處では藝妓が交代で一曲たりづつ時曲や京調を唄つてゐる、無論何を唄つてゐるのやら、何と唄つてゐるのやら少しも解らぬ、節廻しの鑑賞點も一向解らぬ。……其のかなきり聲の旋律に勉めて乗つて見たりして、しきりに好意を持たうと企てたけれども、畢竟徒勞に歸して了つた。次に見た我が昔の壯士芝居めく新劇なるものに至つては馬鹿げて見てゐられない。……私の南宋瓦子に對する憧憬は益々破壊されるばかりだ。怏々として私は此の座席を去つた。併し舊劇の一齣を見る事によつて私の空想は復た聊か光彩を放つて來た。……其の歌曲は私の聽かんと欲する明以來の傳統をもつた崑曲では無くして、清の中葉以後勃興した京調で有るが、其の扮してゐる服粧は明代の舊を存して如何にも典雅である。

⁵⁰ 原文「特別・頭等・香茗每壺小洋一角 二・三等票每名加衛生茶錢銅元兩枚」。「衛生茶」は未詳。

⁵¹ 青木正兒「江南春」『青木正兒全集』7,春秋社,1970,pp.10-11 なお、圈点は原文ママ

本戲單は青木により切り貼りされている。

26：陽曆四月二十五日(星期日)、丙寅年三月十四日、寄園



寄園は嘉興市勤儉路の劇場で、現在の人民劇院⁵²。

《三官堂》(「日演前部、夜演後部」) 莊瑞生、鮑文元、王春靈、陳少峰、朱化慶、陳少鵬、沙憐影、沈蕊芳、魯醒夫、徐醇舫、施芝桂、陸宝和、小福根、沈品山、詹春官、章宝鑫、徐文英、計笑雲、董一明、吳杲梅、施永泉、袁社安、潘子華、金国梁、王菊生、筱雲仙
價格(頭等)：小洋1角、二等：銅元15枚(「軍警童僕一律半票」)

小賬(論者注)：戲單19,27,28に「手巾小賬」とあるのと同様か)頭等：銅元6枚、二等：銅元4枚、香茗：銅元10枚(每壺)

本戲單には説明書が載っている。また、青木により切り貼りされている。

27：丙寅年三月二十七日(礼拝六)、日戲、大新舞台

大新舞台は1926年2月7日に福州路701号に開業した劇場で、現在の天蟾逸夫舞台⁵³。

《反五侯》陳月芳、王海成、潘順奎、祁奎山、王春蘭、劉福芳、安春奎

《徐母罵曹》李冠卿、張來奎、張奎勝、陳崇山、安春奎、王春蘭、凌桂雲、孫榮奎

《玉姣拾鐮》趙文連、陳鴻奎、錢子卿

《四傑村》畢小樓、沈鶴鳴、劉振九、韓文奎、祁彩芬、謝德宝、蓋陣風、楊德才、李小亭、王清鳳、胡小海、龔永德、周菊芳、李雲峰、曹小庭、胡四喜、馬金玉、周正和、李少奎、王鑫泉、祁奎山、張福林、周正海、趙德奎、趙桂安、張順芳、于長海、張喜雲、賈大元、王春蘭、李小山、(全武行)、何順奎、龔福来、田起芳、万小利、田起芳

⁵² 嘉兴市志编纂委员会编『嘉兴市志』(下)中国书籍出版社,1997,p.1758

⁵³ 胡远杰主编『福州路文化街』文汇出版社,2001,pp.266-268

趙周金沈畢趙
玉林鴻天開山
王賢八會城古村杰四

李冠文 趙文連 劉振九 錢鴻奎 王春蘭 李冠卿 張少福 王海成 馬金玉 賈大元 楊勝竈 王鑫泉 凌桂雲 張福林 陳榮山 劉福芳 王清鳳 李小龍 張艷芳 張紫雲 周菊芳 賽陣風 朱艷霞 湯文甫 祁奎山 徐振芳 高鳳山 王春蘭 劉景田 薛永茂 諸連奎 孫榮奎 張奎勝 萬小利 王春喜 周正和 田起芳 張信雲 龔福來 龔永德 趙桂安 安春奎 (武武行) 舒冬至 楊德才 錢寶奎 胡小海 胡四喜 何順祥 周正海 張順芳 賈大元

口六五五話電 ● 日可開演戲馬路四設國華中

大新舞台

戲好作陳演合員心等相武文名離北海特 戲日六拜禮日七念月三年寅丙

暖小巾手
 王春蘭 李冠卿 張少福 王海成 馬金玉 賈大元 楊勝竈 王鑫泉 凌桂雲 張福林 陳榮山 劉福芳 王清鳳 李小龍 張艷芳 張紫雲 周菊芳 賽陣風 朱艷霞 湯文甫 祁奎山 徐振芳 高鳳山 王春蘭 劉景田 薛永茂 諸連奎 孫榮奎 張奎勝 萬小利 王春喜 周正和 田起芳 張信雲 龔福來 龔永德 趙桂安 安春奎 (武武行) 舒冬至 楊德才 錢寶奎 胡小海 胡四喜 何順祥 周正海 張順芳 賈大元

口六五五話電 ● 日可開演戲馬路四設國華中

高慶雲 孟春帆 王雲
南天門
怒打皇宮

王雲 孟春帆 高慶雲 王春蘭 李冠卿 張少福 王海成 馬金玉 賈大元 楊勝竈 王鑫泉 凌桂雲 張福林 陳榮山 劉福芳 王清鳳 李小龍 張艷芳 張紫雲 周菊芳 賽陣風 朱艷霞 湯文甫 祁奎山 徐振芳 高鳳山 王春蘭 劉景田 薛永茂 諸連奎 孫榮奎 張奎勝 萬小利 王春喜 周正和 田起芳 張信雲 龔福來 龔永德 趙桂安 安春奎 (武武行) 舒冬至 楊德才 錢寶奎 胡小海 胡四喜 何順祥 周正海 張順芳 賈大元

口六五五話電 ● 日可開演戲馬路四設國華中

《古城會》金少山、周開天、張子雲、郭永福、馬春樵、張艷芳、舒冬至、王鑫泉、孫榮奎、劉福芳、徐振芳、張福林、高鳳山、王春蘭、李小亭、賈大元、周正和、周正海、趙桂安、龔永德、薛永茂、萬小利、張運祥、楊德才、李少奎、趙小庭、李小山、何順奎、(全武行)、胡小海、田起芳

《八賢王怒打皇宮》趙鴻林、白玉崑、王芸芳、孟春帆、潘順奎、陳月芳、李燕奎、錢子卿、陳俊亭、祁彩芬、趙文連、李少棠、鬼德委奎、李慶棠、劉漢培、陳鴻奎、張來奎、宋春岩、李冠卿、張少福、王海成、馬金玉、賈大元、楊勝竈、王鑫泉、凌桂雲、張福林、陳榮山、劉福芳、王清鳳、李小龍、張艷芳、張紫雲、周菊芳、賽陣風、朱艷霞、湯文甫、祁奎山、徐振芳、高鳳山、王春蘭、劉景田、薛永茂、諸連奎、孫榮奎、張奎勝、萬小利、王春喜、周正和、田起芳、張信雲、龔福來、龔永德、趙桂安、安春奎、(武武行)、舒冬至、楊德才、錢寶奎、胡小海、胡四喜、何順祥、周正海、張順芳、賈大元

《南天門》(《走雪山》)荀慧生、高慶雲、凌奎雲、王春蘭、張福林、王鑫泉、祁奎山、李小龍、李冠卿、王海成、張奎勝、孫榮奎、湯文甫、張艷芳、安春奎、劉福芳、舒冬至

價格/月樓：大洋8角、花樓：大洋8角、優等官厅：大洋8角、特別正厅：大洋4角、頭等正厅：大洋3角、特別包廂：大洋4角、頭等包廂：大洋3角、三層月樓：大洋3角、三層包廂：大洋2角、三層頭等：大洋1角(「幼童減半 僕票一角」)

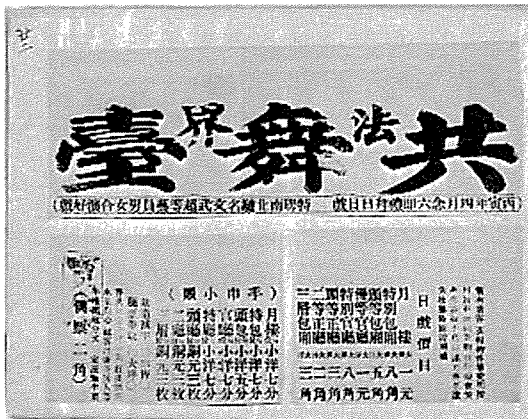
手巾小賬/月樓：大洋5分、花樓：大洋5分、優等官厅：大洋5分、特別正厅：大洋4分、頭等正厅：大洋2分、特別包廂：大洋4分、頭等包廂：大洋2分、三層月樓：大洋2分、三層

包廂：大洋2分、三層頭等：大洋2分

香茗(每位)/官庁、花樓、月樓：小洋2角、余外：1角

「茶房不准需索分文、水菓點心、聽客自便。茶房掙買水菓、分文不取」とあるが、辻によると「茶錢については、實に厭なことが多い。例へば、劇場で、客が座に着くと、直ぐに茶瓶と茶碗を持つて来る、客が飲まないといつても、強いて之を置く。それに就て、何時も、喧嘩が始まる。又茶を飲むに定まつたところで、その茶賣りは、如何にも横着で、客の方で、黙つて居ると、ナカへ湯をさしに来ない。又芝居のハネまでには、まだ多くの時間があるのに、その茶瓶を頻りに持つて行かうとする。彼等の唯一の目的は、茶代にある。湯が冷めやうが、無くならうが、彼等は、全く無頓着である。そして茶錢は、一文でも多く貰はふと請求する」という状況であつたらしく、そのためにこのようなことわり文が必要になつたのであろう⁵⁴。本戲單は青木により切り貼りされている。

28：丙寅年四月二十六日(礼拝日)、日戲、法界共舞台



法界共舞台は上海市公館馬路(現在の金陵東路)卜鄰里口にあつた劇場で、新劇場、天声舞台などとも称した。宣統2年(1911年)に開業し、1929年に閉じた⁵⁵。

《大回朝》汪慶奎、王開雲、林桂生、顧榮觀 《除三害》李茂之、丁長勝

《(大開)嘉興府》王益芳、李宝龍、呂小樵、董小義、諸雲仙、夏如云、高德虎、聶德春、朱德芳、樊春山、

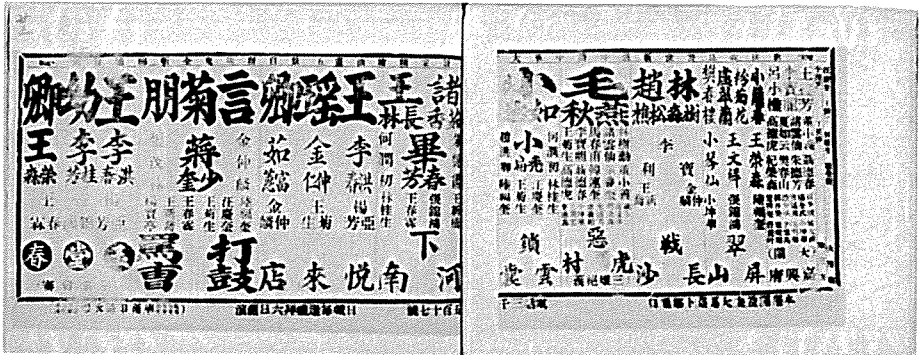
紀榮森、顧榮觀、楊奎武、宦福義、□少亭、郝春榮、董勝奎、侯大祥、小坤華、張明華、李德昌、崔広和、舒慶叶

《翠屏山》小蘭春、粉菊花、盧翠蘭、樊春樓、王榮森、王文祥、小琴仙、陸福奎、張錦鳴、小坤華

《戰長沙》林樹森、趙松樵、李宝利、金仲麟、王新喬

⁵⁴ 辻前掲書(下),p.134

⁵⁵ 前掲『上海通志』8,pp.5480-5481



《悪虎村》(《三雄絶義》)毛燕秋、林樹勲、諸雲仙、馬春甫、李宝龍、王菊生、董小義、董勝奎、韓連奎、聶德春、高德虎、欧玉山、袁端亭、紀榮森、朱德芳、崔広和、小坤華、王開雲、奎德義

《鎖雲囊》小如意、何潤初、小禿扁、趙洪卿、林桂生、汪慶奎、王菊生、陸福奎

《下河南》諸茹香、王長林、朱艷霞、畢春芳、何潤初、王新橋、張錦鴻、王春霖、林桂生

《悅来店》王瑤卿、李洪春、金仲仁、茹富蕙、楊亜芳、王菊生、金仲麟

《打鼓罵曹》言菊朋、金仲麟、蔣少奎、張茂林、陸福奎、汪慶奎、王菊生、王春霖、王新喬、楊宝亭

《三堂会審》(《玉堂春》)王幼卿、李洪春、李桂芳、王榮森、楊亜芳、張錦鴻、王春霖

価格/月楼：大洋1元、特別包廂：大洋8角、頭等包廂：大洋5角、優等官庁：大洋1元、特別官庁：大洋8角、頭等正庁：大洋3角、二等正庁：大洋2角、三層包廂：大洋3角(「幼童減半」「僕票二角」)

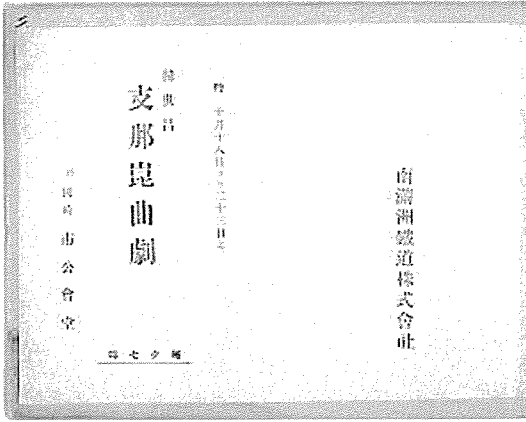
手巾小張/月楼：小洋7分、特包：小洋7分、頭包：小洋5分、官庁：小洋7分、特庁：小洋7分、頭正：銅元3枚、二庁：銅元3枚、三層：銅元3枚

香茗：小洋1角(每壺)

本戲單は青木により切り貼りされている。

29: (1928年)十月十八日ヨリ二十三日迄、韓世昌支那崑曲劇、毎夕七時、京都市岡崎公会堂⁵⁶。

⁵⁶ 本公演については拙論「韓世昌による崑曲来日公演とその背景について—滿鉄の弘報活動との関係から」『名古屋大学附属図書館研究年報』6,2007 を参照されたい



十八日(木)《思凡》《鬧學》十九日(金)
《拷紅》《驚夢》二十日(土)《思凡》
《鬧學》

二十一日(日)《拷紅》《驚夢》二十
二日(月)《思凡》《鬧學》二十三日(火)
《拷紅》《驚夢》

本戲單では劇の筋書きが紹介され
ている。

